平成29年11月26日（日）静岡新聞朝刊

大規模災害備え 院内の連携確認

静岡赤十字病院

静岡市葵区の静岡赤十字病院は25日、南海トラフ地震を想定した大規模災害訓練を実施した。患者のトリアージや搬送方法など院内での初期対応を確認した。

医師や看護師など病院職員約250人が参加し、約30の班に分かれて訓練に取り組んだ。患者役で搬送された病院職員らに対し、病院の出入り口付近でトリアージを行い、重症、中等症、軽症の三つの診断エリアに素早く割り振った。崩れた壁や家具の下敷きになった人や落下物でけがを負った患者の状態を詳しく診断し治療に当たった。

磯部潔院長は「災害拠点病院として初期対応の重要性を確認し、問題点を改善して災害に備えたい」と話した。

搬送された患者を診断する参加者
＝静岡市葵区の静岡赤十字病院